

chapter 1

ICTメディア・情報利用の実態

中学生の9割、高校生はほとんどが、ふだんインターネットを利用しています。そのアクセスデバイスは、中学生で、スマートフォンやパソコンだけでなく携帯型音楽プレーヤーなども含め多様化している様子がうかがえます。高校生は約9割がスマートフォンです。

このようなモバイル型のデバイスの普及は、中高生にいつでもどこでもネットにアクセスできる環境をもたらしています。中高生の半数以上がニュースなどの情報をネット経由で手軽に入手しているようです。しかし、一方では長時間利用や情報リテラシーの不足など課題もみられています。この章では、インターネットへのアクセス状況や利用内容、情報利用を中心に今の中高生の実態をみていきます。

Contents

1-1	インターネットを利用している人、 していない人はどれくらい？	05
1-2	所有しているICTメディアは？	06
1-3	多様化するインターネットへのアクセスデバイス	07
1-4	インターネットをする時間はどのくらい？ ー利用時間全体とコミュニケーションの時間ー	08
1-5	インターネットで何をしている？	10
1-6	利用ルールは決めている？	11
1-7	ニュースなどの情報はどこから？ ーインターネットメディアと既存メディアー	12
1-8	情報リテラシーは身につけている？	13
1-9	インターネット動画とテレビどちらを見る？	14
1-10	携帯電話やスマートフォンがなくなったら どのくらい困る？	15

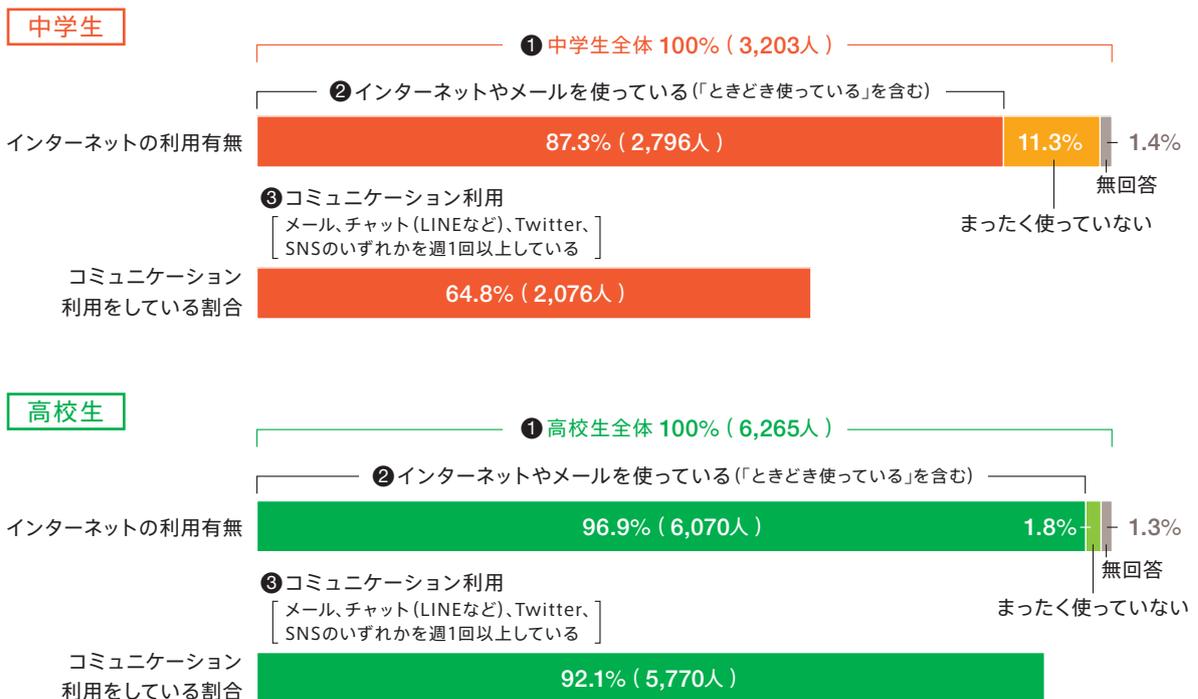
高校生はほぼ全員、中学生も9割弱がインターネットを利用。 中学生のメールなどのコミュニケーション利用は6割強にとどまる。

ふだんインターネットやメールを利用している(学校の授業以外)のは、中学生87.3%、高校生96.9%である。中学生ではまったく使っていない人も11.3%いる。これをコミュニケーション利用(メールやチャット(LINEなど)、Twitter、SNSのいずれかを週1回以上しているケース)に限ってみると、中学生は64.8%にとどまり、インターネットは使っていても、コミュニケーション利用はしていないケースが2割程度あることがわかる。高校生はインターネット利用もコミュニケーション利用もほぼ全員が行っている。

Q ふだん、インターネットやメールを使っていますか。学校の授業での利用は含めません。

※ウェブサイトを見る、メール、チャット(LINEなど)、ブログ、Twitter、SNS(mixi、Facebookなど)を読む・書く、動画を見る、ゲームをする、などすべてを含めてお答えください。

図.01 インターネットやメールの利用状況



注) ③「コミュニケーション利用」をしている割合は、p10の図08の「メールをする」「チャットをする(LINEなど)」「Twitterをする」「SNS(mixi・Facebookなど)をする」のいずれかについて、「週1~4回くらい」または「ほぼ毎日」の該当者数を算出したもの。

以降、本書でグラフの右上に表示する分析の対象が、「全体」となっている場合は①を母数にした割合を、「インターネット利用者」となっている場合は②を母数にした割合を表します。

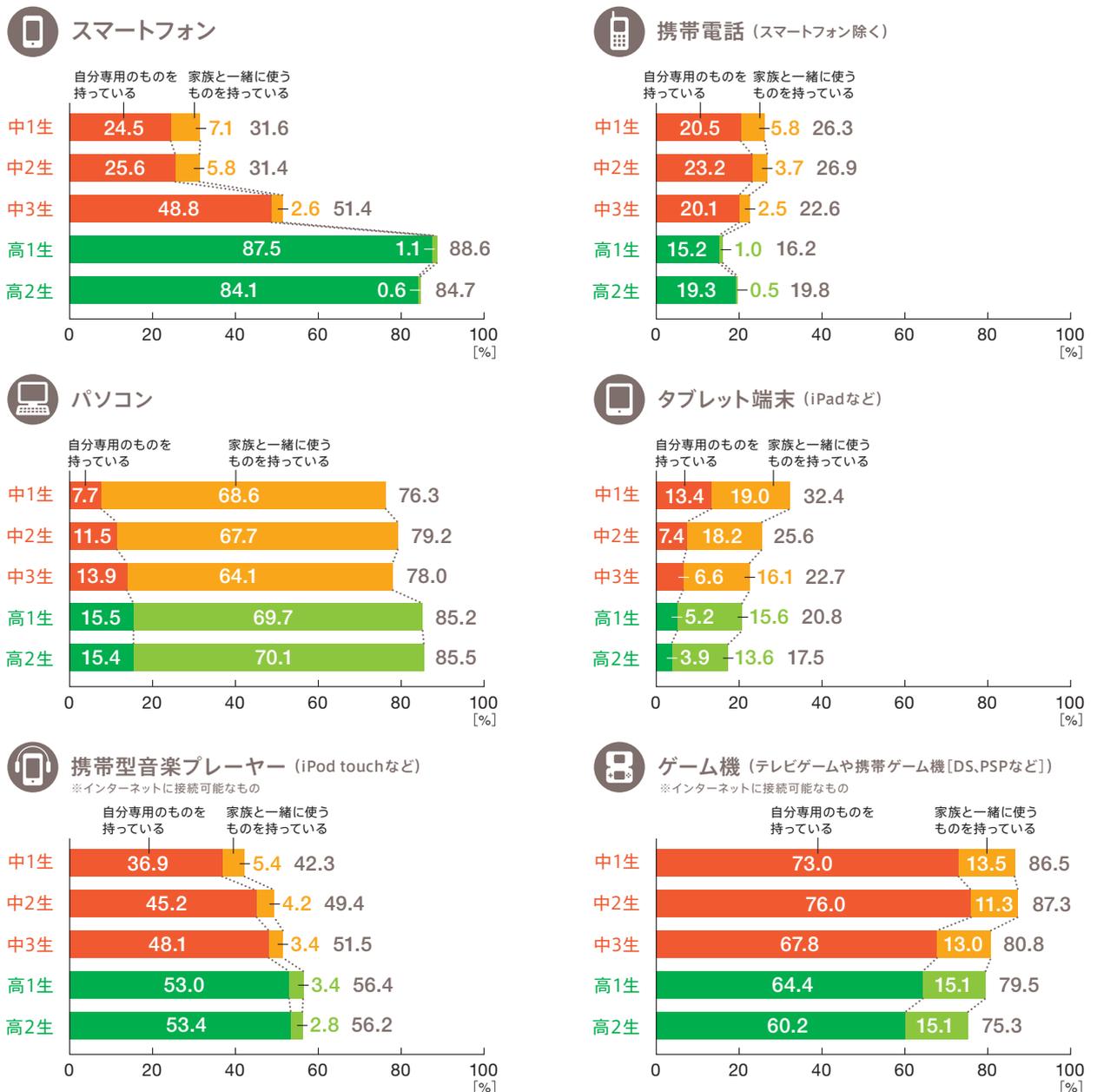
高1でスマートフォン所有が増え、ほぼ9割に。 タブレット端末 (iPadなど) は中1が多い。

中高生の情報通信機器の所有率は、自分専用の「スマートフォン」を持つ割合は中1生では24.5%だが、高1生では9割近くに達する。「パソコン」は家族との共用が多い。「タブレット端末」は中1生が最も多く、自分専用と家族共用を合わせて約3分の1 (32.4%)が所有している。また、インターネットに接続可能な「携帯型音楽プレーヤー (iPod Touchなど)」の自己所有は中1生 36.9% < 高2生 53.4%と学年があがるにつれて増え、「ゲーム機」の自己所有は中2生の76.0%をピークに、学年があがるにつれ徐々に少なくなっている。

Q あなたはふだん、次のようなものを持っていますか。

図.02 ICTメディアの所有率 (学年別)

全体



注1) この設問は「自分専用のもを持っている」「家族と一緒に使うものを持っている」「持っていない」の3択で回答。

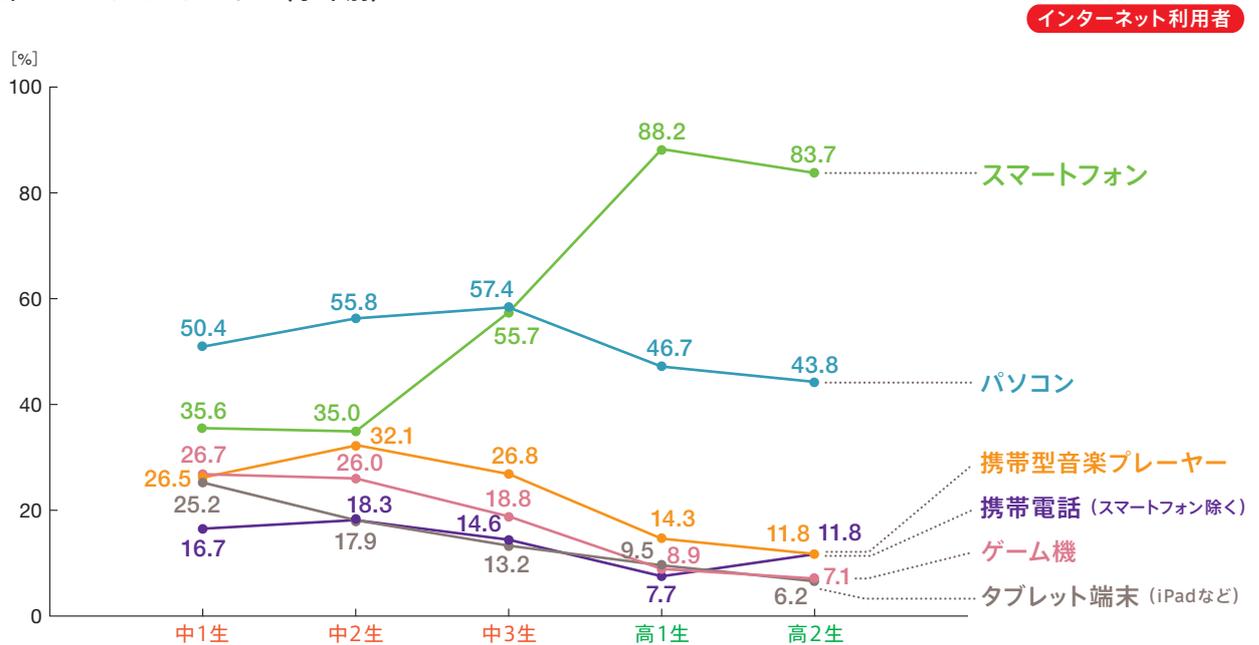
注2) 対象は、中1生1,067名、中2生1,074名、中3生1,062名、高1生3,332名、高2生2,933名。

高校生では「スマートフォン」の利用が8割超、中学生では、「携帯型音楽プレーヤー」なども含めアクセスデバイスは多様に。

インターネットにアクセスする時に使用しているデバイスは、中学生では「パソコン」が5割程度で最も多いが、高校生になると、「スマートフォン」が増加し8割を超え、その他のデバイスの利用率が下がる。使用デバイスの組合せ(表01)をみると、高校生では、「スマートフォンのみ」が42.5%、「スマートフォン+パソコン」の組合せが25.2%と、この2つのパターンでおよそ7割に達する。他方、中学生については、「スマートフォンのみ」が最も多いものの15.1%に過ぎず、アクセスデバイスは多様になっている。

Q あなたはふだん、インターネットやメールをする時、何を使っていますか。(複数回答)

図.03 アクセスデバイス (学年別)



注) 対象は、中1生911名、中2生946名、中3生939名、高1生3,231名、高2生2,839名。

表.01 アクセスデバイスの組合せ

インターネット利用者

中学生	[%]	高校生	[%]
スマートフォンのみ	15.1	スマートフォンのみ	42.5
パソコンのみ	10.4	スマートフォン+パソコン	25.2
スマートフォン+パソコン	9.3	スマートフォン+パソコン+携帯型音楽プレーヤー	3.1
携帯型音楽プレーヤーのみ	8.5	スマートフォン+パソコン+ゲーム機	3.0
パソコン+ゲーム機	6.1	その他(51の組合せ・全て3%に満たない)	26.0
パソコン+携帯型音楽プレーヤー	4.7		
携帯電話(スマートフォン除く)のみ	3.9		
タブレット端末(iPadなど)のみ	3.1		
その他(51の組合せ・全て3%に満たない)	38.6		

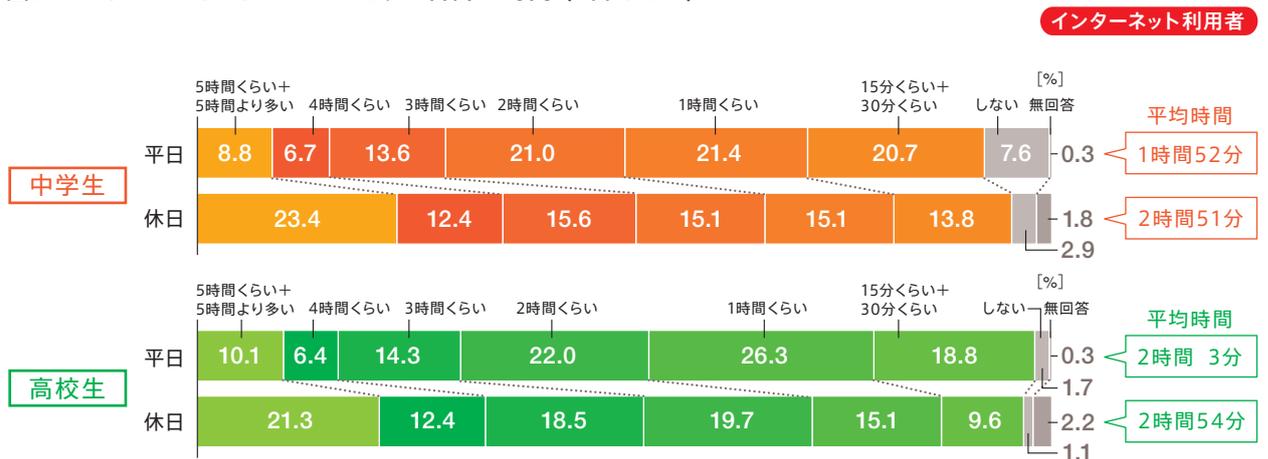
平日に「5時間以上」利用している中高生が1割前後、休日だと2割を超える。

ネットやメールの利用時間について、1日あたりの「1)合計時間」「2)1)のうち、メールやチャット(LINEなど)、SNS(mixi、Facebookなど)、Twitterをする時間」(=コミュニケーション利用時間)に分けてたずねた。長時間利用者に着目すると、合計の時間は、「5時間以上」の利用者が中高生とも平日に1割程度、休日だと2割程度に増える。また、コミュニケーション利用に関しては、休日には、中高生とも「5時間以上」利用者が1割程度いる。一方で、中学生は、コミュニケーション利用を「しない」人も3割弱存在している。

Q 平日と休日に、インターネットやメールをどれくらいしていますか。
 だいたいの時間を教えてください(使用機器は問いません)

インターネットやメールをする合計の時間(1日あたり)

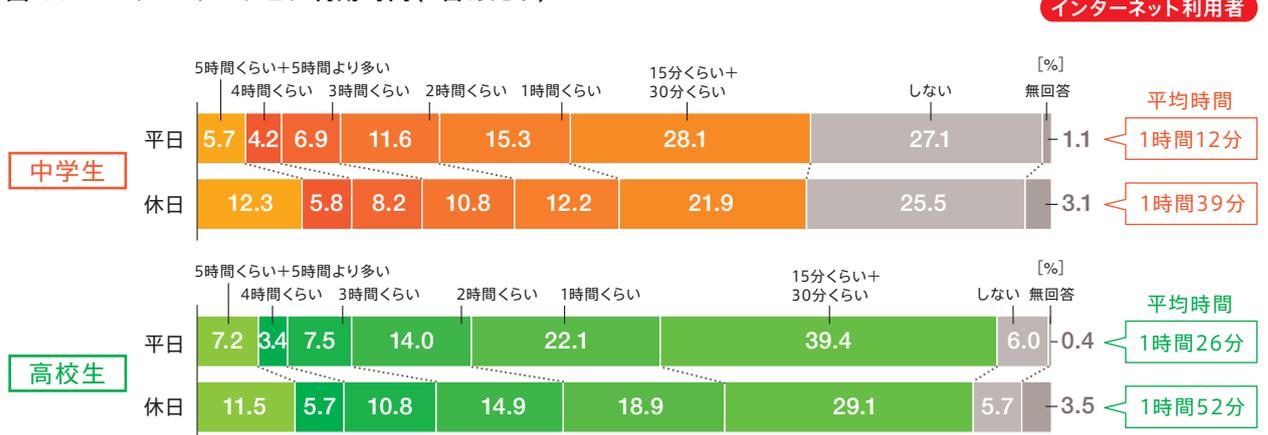
図.04 インターネットやメールをする合計の時間(1日あたり)



注1) 平均時間は、「しない」を0、「15分以下」を0.25、「30分以下」を0.5…「5時間以上」を5、「5時間より多い」を6として算出している(無回答は除く)。図05も同じ。
 注2) 対象は中学生2,796名、高校生6,070名。図05も同じ。

インターネットやメールをする時間のうち メールやチャット(LINEなど)、SNS(mixi、Facebookなど)、Twitterをする時間(1日あたり)

図.05 コミュニケーション利用時間(1日あたり)

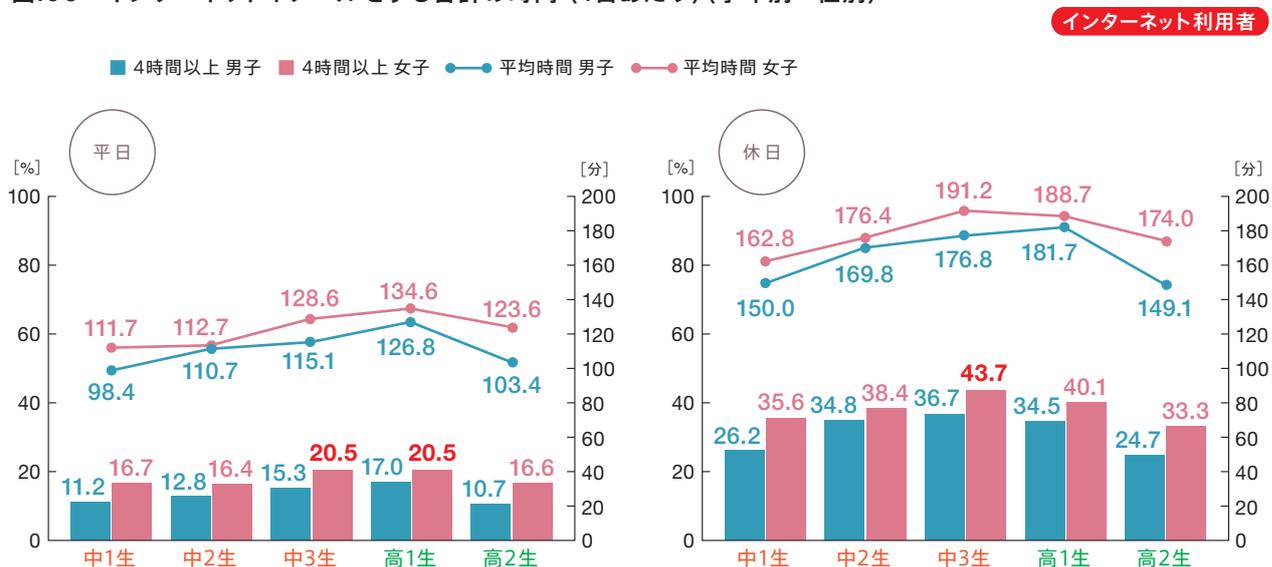


中3女子の約3割が休日にコミュニケーションに4時間以上費やしている。

性別に利用時間(平均)をみると、どの学年においても女子の方がやや長くなっている。特に「コミュニケーション利用時間」で男女の差が大きい。また、1日に「4時間以上」利用している割合をみると、中3女子が最も高く、休日の「インターネットやメールをする合計の時間」は43.7%(図06)、うち「コミュニケーション利用時間」だけでも28.1%が「4時間以上」費やしている(図07)。平日でも中3女子と高1女子は20.5%が「4時間以上」使用しており、その多くはコミュニケーション利用であることがわかる。

インターネットやメールをする合計の時間(1日あたり)

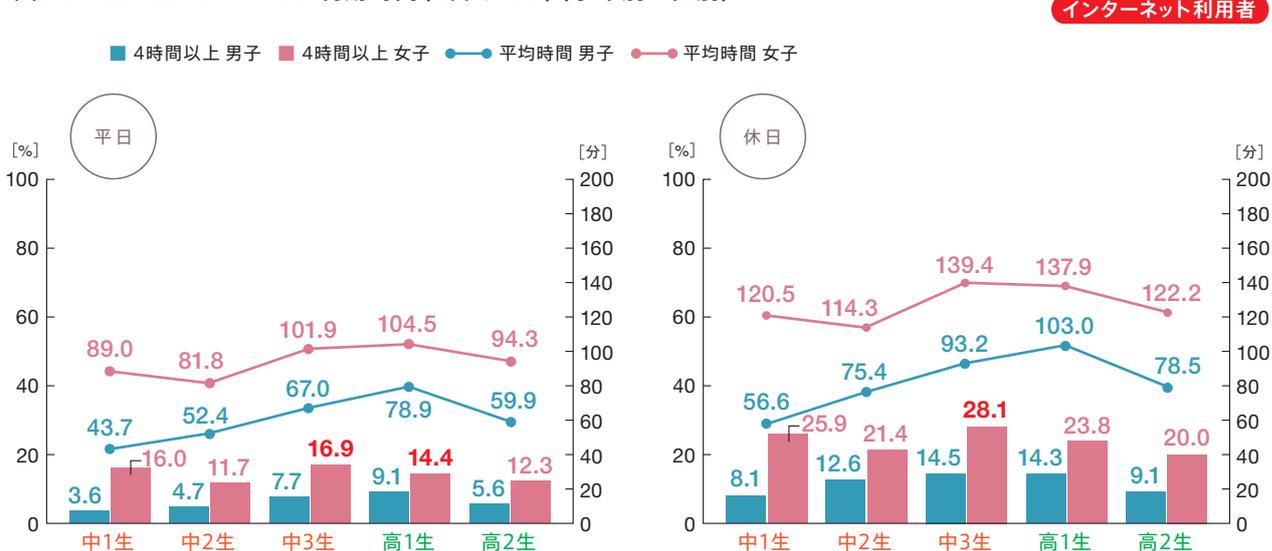
図.06 インターネットやメールをする合計の時間(1日あたり)(学年別×性別)



注1) 平均時間は、「しない」を0、「15分くらい」を0.25、「30分くらい」を0.5、「5時間くらい」を5、「5時間より多い」を6として算出している(無回答は除く)。図07も同じ。
 注2) 対象は、中1生911名、中2生946名、中3生939名、高1生3,231名、高2生2,839名。図07も同じ。

インターネットやメールをする時間のうち メールやチャット(LINEなど)、SNS(mixi、Facebookなど)、Twitterをする時間(1日あたり)

図.07 コミュニケーション利用時間(1日あたり)(学年別×性別)

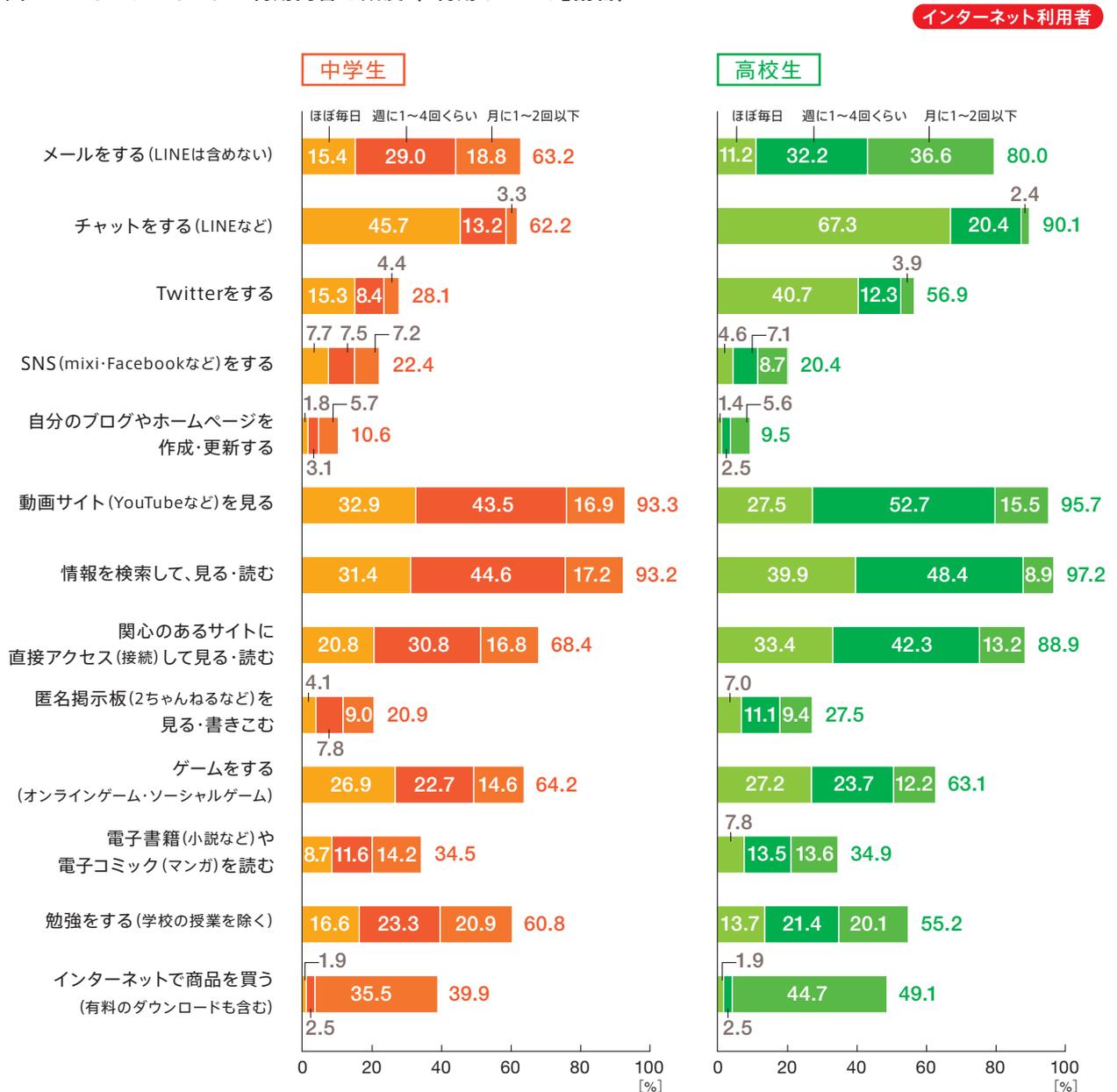


ネット利用者の約3割は 動画サイト (YouTubeなど) を「ほぼ毎日」利用。

中高生がインターネットを使ってどのようなことをしているのか、利用の有無および頻度をたずねた。図08は、各項目について、「利用している」割合（「しない」「無回答」以外の割合。以下、利用率とする）を表している。利用率が高いのは「動画サイト (YouTubeなど) を見る」「情報を検索して、見る・読む」で9割を超えている。「ほぼ毎日」する割合をみると、「チャットをする (LINEなど)」が高く、中学生45.7%→高校生67.3%と高校生で大きく増えている。同様に、「Twitter」も高校生になると40.7%と高くなっている。

Q あなたはふだん、インターネットを使って、次のようなことをどれくらいしていますか。

図.08 インターネットの利用内容と頻度（「利用している」割合）



注1) 選択肢は、「ほぼ毎日」「週に3~4回くらい」「週に1~2回くらい」「月に1~2回くらい」「月に1回以下」(=以上「利用している」)、「しない」の6択。

グラフでは、「週に3~4回くらい」「週に1~2回くらい」を「週に1~4回くらい」、「月に1~2回くらい」「月に1回以下」を「月に1~2回以下」として表示している。

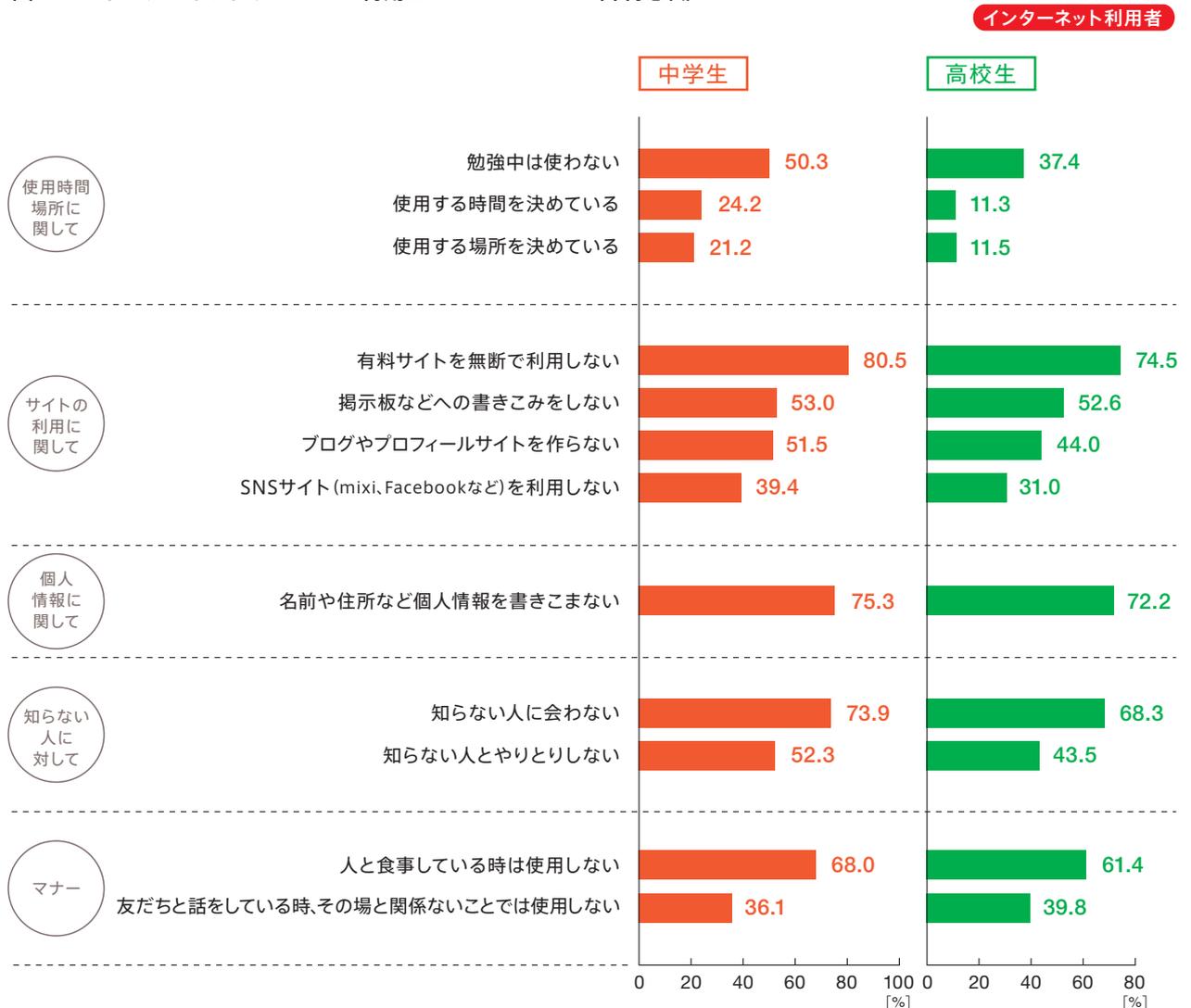
注2) 対象は、中学生2,796名、高校生6,070名。

「勉強中は使わない」としているのは、 中学生で半数、高校生は4割弱。

インターネットやメールの利用について、ルールや自製の意識についてたずねた。「勉強中は使わない」としているのは中学生で5割、高校生で4割弱であった。「使用する時間を決めている」のは中学生では24.2%だが、高校生になると11.3%に下がる。また、知らない人との接触に関しては、「知らない人とやりとりしない」としているのは、中学生で52.3%であるが、高校生では43.5%に下がり、「知らない人に会わない」も中学生の73.9%から高校生は68.3%と若干下がっている。

Q インターネットやメールの利用について、以下のことを意識していますか。(複数回答)

図.09 インターネットやメールの利用についてのルール・自制意識

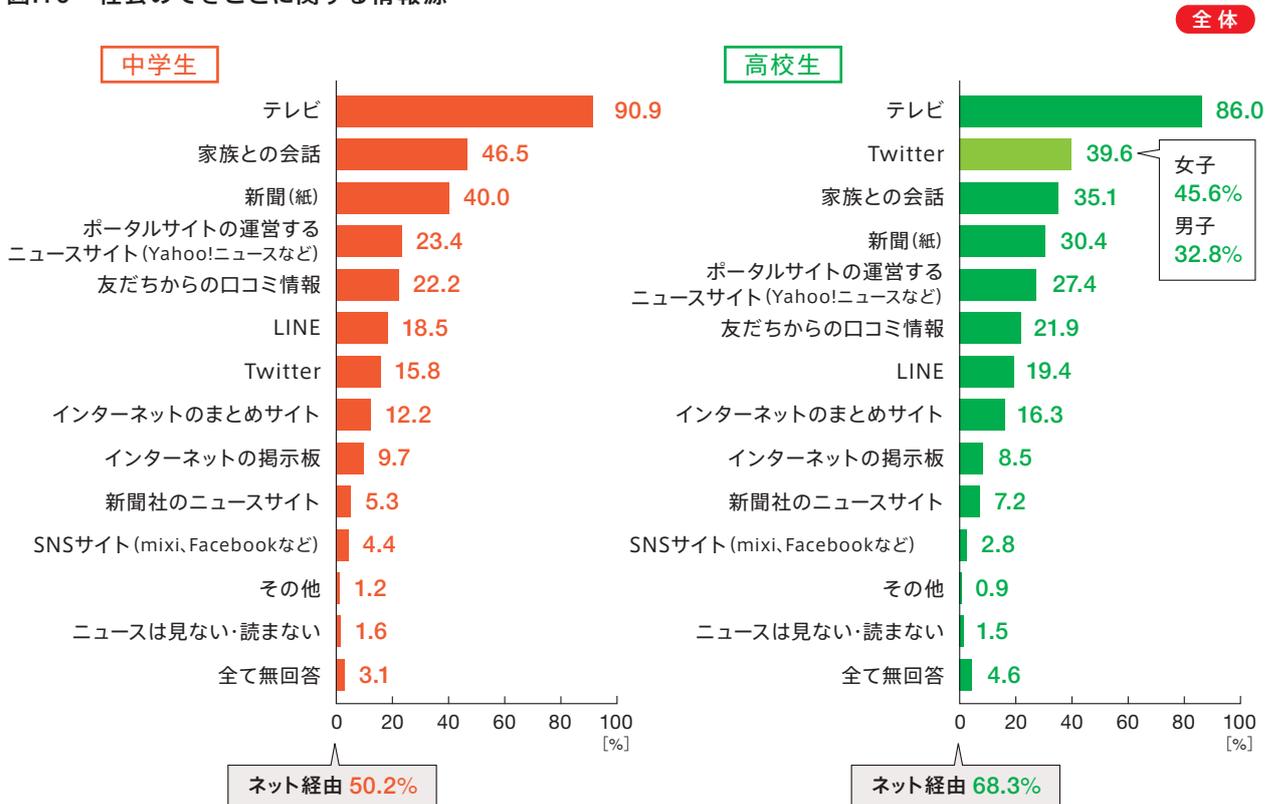


中高生の情報源は「テレビ」が約9割で最多。 高校生では「Twitter」が2番目に多く4割が利用。

ニュースなどの社会のできごとに関する情報源は、中学生ともテレビが最も多く(中学生90.9%、高校生86.0%)、次いで中学生は「家族の会話」(46.5%)、高校生は「Twitter」(39.6%)が高い。「Twitter」の利用は高校生女子で45.6%と半数近くにのぼっている。「新聞(紙)」は中学生40.0%だが高校生では30.4%に下がっている。さらにその中でももっともよく利用しているものを1つだけたずねた結果では、「テレビ」が最も多かった(表02)。情報入手経路は多様化しているものの、テレビの影響はいまだに大きいようだ。

Q あなたはふだん、ニュースなど社会のできごとに関する情報を何から入手していますか。
※この1週間に利用したもの。

図.10 社会のできごとに関する情報源



Q その中でふだんもっともよく利用しているのは何ですか。

表.02 もっともよく利用している情報入手経路(上位3項目)

中学生			高校生		
順位	情報源	割合 [%]	順位	情報源	割合 [%]
1	テレビ	70.6	1	テレビ	59.5
2	新聞(紙)	4.7	2	Twitter	11.2
3	LINE	4.3	3	ポータルサイトの運営するニュースサイト(Yahoo!ニュースなど)	6.4

注) 対象は、図10で「ニュースは見ない・読まない」「全て無回答」以外の中学生3,052名、高校生5,886名。

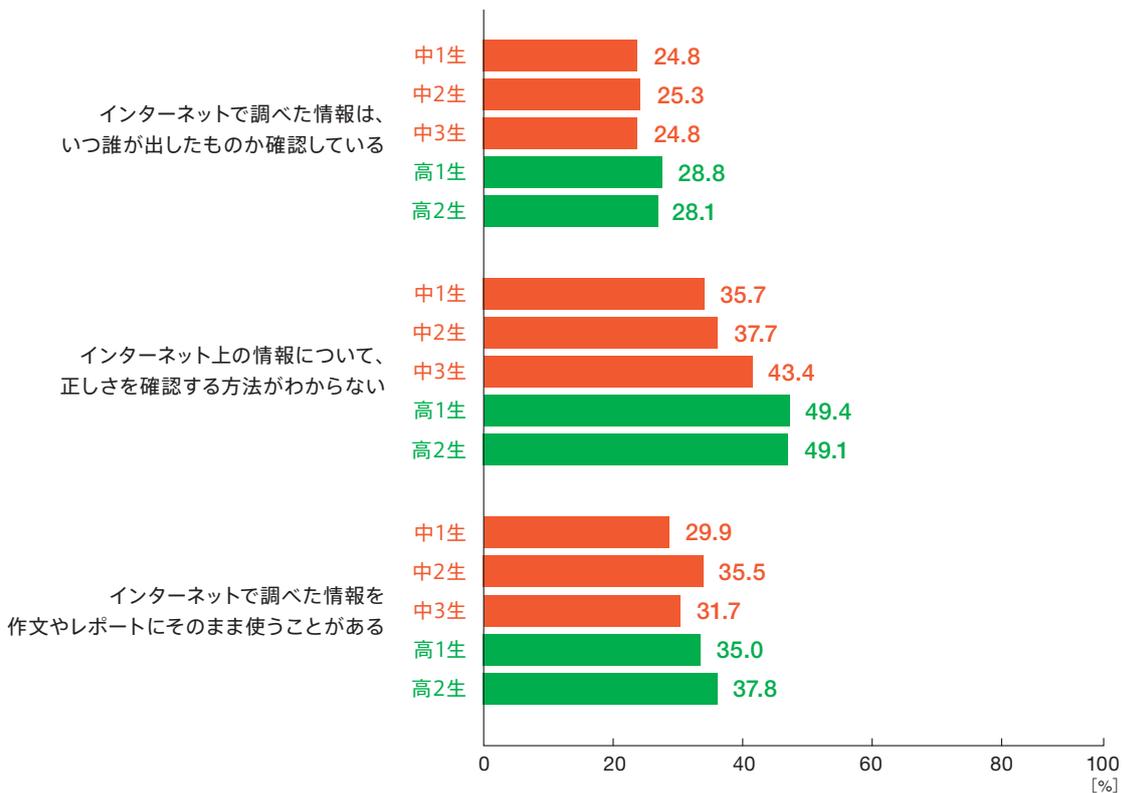
高校生の5割が、 「インターネット上の情報の正しさを確認する方法がわからない」。

情報リテラシーについてたずねたところ、「インターネットで調べた情報は、いつ誰が出したのか確認している」のは中学生で約4分の1、高校生で約3割であった。「インターネット上の情報について、正しさを確認する方法がわからない」は、中学生で約3分の1、高校生では半数がそう答えている。また、「インターネットで調べた情報を作文やレポートにそのまま使うことがある」も中高生の約3分の1が肯定している。

Q インターネットの情報を利用するにあたり、
あなたには次のようなことがどれくらいあてはまりますか。

図.11 情報リテラシー（学年別）

インターネット利用者



注1) 「とてもあてはまる」+「まああてはまる」の%

注2) 選択肢は、「とてもあてはまる」「まああてはまる」「あまりあてはまらない」「まったくあてはまらない」の4択。

注3) 対象は、中1生911名、中2生946名、中3生939名、高1生3,231名、高2生2,839名。

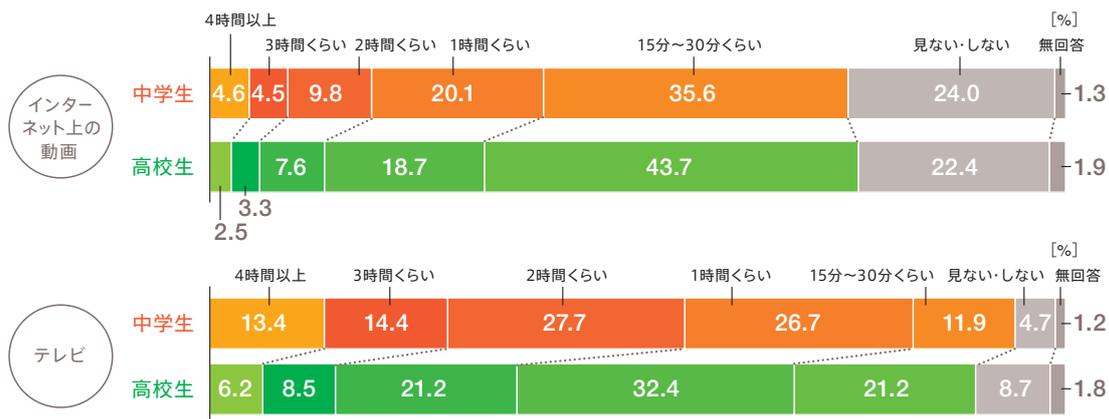
15%前後の中高生は、 テレビよりインターネット動画視聴の時間が長い。

平日のインターネット上の動画とテレビの視聴時間は、ネット動画もテレビも全般に中学生の方が長時間視聴の割合が多くなっている。ネット動画は中学生の約1割が「3時間以上」（「3時間くらい」+「4時間以上」）見ている。次に、ネット動画とテレビのどちらを長く見ているのか、回答時間の差異から3つのケース「ネット動画の方が長い」「ネット動画とテレビが同時間」「テレビの方が長い」に分けた結果が図13である。テレビより「ネット動画の方が長い」のは中学生14.3%、高校生16.8%であった。

Q 平日（学校がある日）に次のようなことをどれくらいしていますか。
1日のだいたいの時間を教えてください。

図.12 インターネット上の動画（Youtube、ニコニコ動画など）とテレビをみる時間

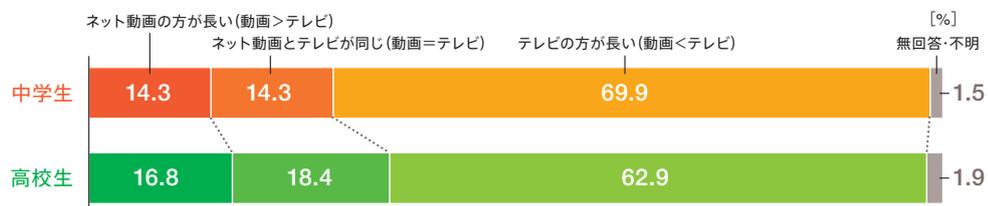
全体



注) 「4時間以上」は「4時間くらい」+「4時間より多い」の合計の割合を表す。

図.13 ネット動画とテレビの視聴時間の比較

全体



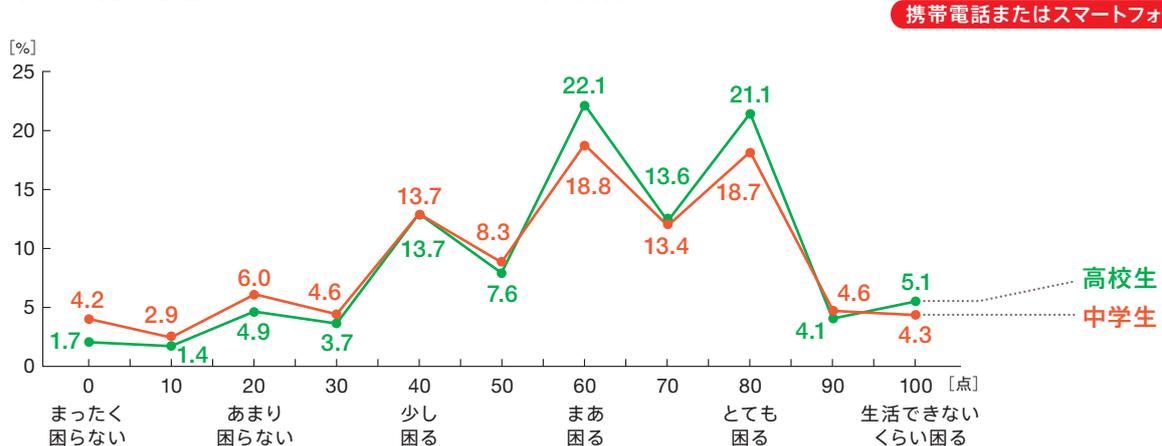
注) 「見ない・しない」を0、「15分くらい」を0.25…「4時間くらい」を4、「4時間より多い」を5として、ネット動画とテレビの視聴時間の差を算出し、「動画>テレビ」「動画=テレビ」「動画<テレビ」の3つの区分に分けた。

「とても困る」～「生活できないくらい困る」と感じているのは約3割。

携帯電話やスマートフォンがなくなったらどれくらい困るかを点数でたずねたところ、「とても困る」(80点)が中高とも2割前後、「生活できないくらい困る」(100点)が5%前後であった。さらに、「生活できないくらい困る」と回答した中高生についてその理由をみると(表03)、「親や友だちとの連絡、つながり・コミュニケーションがなくなること」に関する内容が約4割で多く、次いで「情報収集ができなくなる」「退屈になる」といった内容が約1割で多かった。

Q もし今の生活から携帯電話やスマートフォンがなくなると、どれくらい困りますか。「まったく困らない」を「0点」、「生活できないくらい困る」を「100点」として教えてください。

図.14 携帯電話やスマートフォンがなくなると困る度合い



注) 対象は、携帯電話またはスマートフォンによるネットアクセス者 中学生1,573名、高校生5,750名。

Q またその理由を簡潔にお答えください。

表.03 「生活できないくらい困る」と回答した人の理由(中学生・高校生)

カテゴリ	フリーアンサー内容	割合
親や友だちとの連絡、つながり・コミュニケーションがなくなること	家族や友達と連絡がとれなくなり、世間から隔絶されてしまう気がする/学校がちがう友達や親との連絡手段がないから/スマホがないとみんなの行動がわからなくなるから/誰でも連絡とれなくなり、不安だから/LINEで知り合った友達、家族などと連絡が取れなくなるととても辛い/友達とのまちあわせ等で、とてもかかせない物だから	4割
情報収集ができなくなる	情報収集の手段だから/情報についていけなくなる/情報がないと他の人に遅れをとってしまうため/知りたいことをすぐ知れないから/生きていく上での大切な情報網だから。	1割
退屈になる	なにをしたらよいかわからなくなり暇になる/楽しみがなくなる/連絡とれないし、暇になる/つまらない	1割
娯楽・趣味がなくなる	娯楽がなくなる/音楽が聴けなくなる・ゲームができない/ 好きなアーティストの情報が入ってこないから/動画が見れない	1割弱
生活の一部、体の一部だから	もはや生活の一部だから/小1から持っているから人生の一部/スマホは体の一部	1割弱
その他	時計などもスマートフォンに頼っているから/予定の管理をスマホで行っているため/ もしも災害や事故がおこった時に連絡がとれないから/持っていないと不安、イライラする	—

注1) カテゴリは回答結果からまとめたもの。

注2) 割合は、「生活できないくらい困る」と回答した中高生393名に占める回答数の割合。複数の観点が含まれる場合は複数のカテゴリにカウントしている。